



「八戸」 F30号油彩

第14回高校生
国際美術展
産経新聞社賞
受賞

飛翔OB会

同窓会
会報

平成26年3月2日
第21号

第十四回高校生国際美術展において、美術コース三年の工藤あかりさんが制作した油彩作品が、「産経新聞社賞」を受賞しました。応募総数は一九三三点。産経新聞社賞は上位七賞の一つにあたるものです。工藤さんは、平成二十五年六月二十九日、六本木のミッドタウンで行われた表彰式に招待されて出席しました。また作品は国立新美術館に展示されました。受賞した工藤さんに感想を聞いたところ、「この作品には思い入れがあります。夕方の漁港の雰囲気表現するために、日没前の時間をねらって何度も現場に足を運び、スケッチをしたり資料写真を撮ったりしました。描く際は、どうしても面白くなるのかを考えました。明度と彩度に差をつけて目を引くようにしたり、構図を工夫して画面のインパクトを強めました。表彰式では全国を受賞作品を見て勉強になりました。とても良い経験が出来たと思います。」と語り、自身の制作を振り返り、受賞の喜びを嘖みしめていました。

『人間力を高めながら』



同窓会会長 熊谷 雄一

東日本大震災から三年が経とうとしています。原発事故の処理の難しさや被災地の復旧が当初の計画通りにはなかなかいかない状況を思うと、心が痛むと同時に、あの未曾有の体験を決して風化させてはならないと改めて思います。

青森県の場合、早期に復旧が進んだ要因の一つとして、「地域力」の強さが挙げられると思います。

「地域力」とは、阪神・淡路大震災の発生の際に災害に強い地域を形成する上での原動力として提唱された概念で、その根源となるのが、生きる意欲と共助の精神を持つ一人ひとりの「人間力」であると思います。「人間力」は、「社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力」と定義され、教育現場でも、「人間力」を「生きる力」と置き換

えて、キャリア教育等を通じて実践されております。急激な変化を伴う複雑な今日の社会を生き抜くために必要な能力の一つであり、一人ひとりが日々の行動を通して、その向上に努めなければならぬと思います。

本校の同窓生が、すでに一万人を超え、各界、各分野で、「人間力」を発揮して活躍していることは、実に喜ばしく、頼もしい限りです。そして、同窓会の活動に対する皆様のご協力とご支援に心から感謝申し上げます。

母校は、来年、創立四〇周年を迎えます。同窓会、後援会、PTA、PTAOB会の四者による実行委員会も組織され、その準備に取り組んでおりますが、やはり同窓会がその中心的な役割を担わなければならないと考えております。同窓生の力を結集して、「二高生ここにあり」の意気をおいでしようといえます。

結婚しました

- 小山 直也 (13回生)
- 葛西(滝田)志津江 (21回生)
- 松田(富永) 瑩 (26回生)
- 高橋(森田)沙織 (28回生)
- 梅内(川向) 亜季 (34回生)



二高教員にインタビュー

野村先生・田名部先生



◎今年度で定年退職なさる野村先生と田名部先生からお話を頂きました。まずは野村先生に伺いました。

(今年の3月で定年退職を迎えられますが、これまでの教員生活を振り返ってどんな思い出がありますか。)

のほうが多いですが、その時々で能力でやれることをするしかありませんでした。ご容赦をお願いしたいと思います。

(今後はどのような時間をお過ごしになる予定ですか?)

晴耕雨読の生活です。今住んでいる宅地の隣に小さな畑があります。晴れた日にはその家庭菜園を耕し、土にまみれ、野菜でも育ててみたいと考えております。野菜はあまい言葉だけでは良く育ってくれないと思いますので、大自然と一体となり手間暇かけ、気ながに育てていくつもりです。雨の日は読書です。今までに買った本はいろいろ、読まずに積ん読されている本が、部屋のあちこちで埃の布団をかぶり眠っております。それらの本を起床させ、一冊一冊読み進めたいと思います。本は、居ながらにして色々な世界に連れて行ってくれますので、本当に楽しみです。

(OB・OGの皆さんへメッセージをお願いします)

私立高校の大きな特徴は、在校生と卒業生、さらに保護者も教職員も、みんなが二高家族の一員であるということです。

高校時代の三年間をただ二高に籍を置いたという薄っぺらな関係ではありません。親子兄弟の血がつながり合うように、一人ひとりが強い絆で結ばれているということです。

そうであれば、都合の良いときや楽しいときだけつきあいをするというわけにはいきません。むしろ、逆境のときにこそ、お互いに励まし助け合わなければならぬと思います。同窓会を中心として、日本全国いや全世界で活躍する二高卒業生とのネットワークを、さらに強固なものにして頂きたいと思えます。



◎次に、田名部先生にお話を伺いました。(田名部先生も、今年度の3月で定年退職を迎えられますが、これまでの教員生活を振り返ってどんな思い出がありますか。)

3月で定年退職を迎えられますが、これまでの教員生活を振り返ってどんな思い出がありますか。)

振り返ってみると、一九八〇年から一九八九年にかけての十年間の経験が自分の教員としての成長に大きく影響したことでしょ。創立十周年に向けて吹奏楽部を立ち上げ、楽器購入からコンクール県大会出場までの四年間。次の年から全く経験が無かったアーチェリー部の顧問として生徒と一緒に朝から晩まで練習に明け暮れ、五年目で旭川でのインターハイに出場できたこと。また、同じ年の七月、急遽発表者の代打として指名され八月郡山での東北私学研修大会での発表。そして自分のクラスは二高で初めてであり最後となる教養コース女子クラスでの三年間の担任。波乱に富み、目の回るような十年間があったからこそ、どんなことが起こってもめげずにがんばれるようになったと思えます。

(今後はどのような時間をお過ごしになる予定ですか?)

また何も決めていませんが、まずは家族に対して感謝の気持ちを伝えることからは始めようと思っています。そして、出来れば少しでも教育現場に携われば幸いだと考えています。しかし、一方では今までと全く別の世界で生きてみたいとも思っています。(まだ、何も具体的なものはありませんが。)

(OB・OGの皆さんへメッセージをお願いします)

どこかでお会いすることもあるかと思いますが、その時はよろしくお願ひします。

野村先生、田名部先生、これまで本当にお疲れ様でした。そして、ありがとうございました。ごさいます。

住所の移転や進路の変更がある時には、返信用葉書で連絡をお願いいたします。その際には、必ず氏名・住所を記載し、できれば、電話番号・進路先・メールアドレスも記載して下さい。(同窓規約第二条及び内規第一章総則5に基づき管理運用) 同期会開催の際には、案内状を本部事務局に送付下さい。一万円援助致します。

ホームページアドレス <http://www.kodai2-ob.com/>

三年間で成長したこと

渡辺 智亮

私が二高に入学して三年の月日が経ちます。私はこの三年間、文武両道を意識しながら過ごしてきました。その中で、自分が変わるきっかけを与えてくれたのがラグビーでした。

ラグビーに出会って、自分の中の意識やものの見方が変わりました。入部当初の自分は、すべての考えの中心は自分が自分が納得するいいプレーをと考えてばかりいました。しかし、ある日の練習にて、顧問の出町先生が部員全員に「チー

ムのために自己犠牲ができる選手になれ」とおっしゃいました。この言葉と出会ったことで、自分のプレースタイルは大きく変わり、「泥臭いプレーでもいいから、チームのために貢献できるプレーをしよう」と思うようになりました。この変化は、自分が今後の人生を送る上で、絶対にプラスになったと思います。これから私は大学に進学しますが、新しい世界でも挑戦し、吸収していきたいです。

三年間支えてくださった先生方、本当にありがとうございました。ごさいます。

卒業生からの声

考える前に飛び込む

関川 眞弥

二高での三年間を振り返ってみると、勉強や部活など毎日を全力で過ごしていたように感じます。また、学外活動にも参加し、ホームステイや海外遠征などを通して様々なことを学ぶことができました。

学外活動に参加しようと思ったきっかけは、今まで自分が体験したことのないことをしたいと思ったからです。そんな気持ちで何気なくやって

みましたが、その体験から沢山の人の関わること

ムのために自己犠牲ができる選手になれ」とおっしゃいました。この言葉と出会ったことで、自分のプレースタイルは大きく変わり、「泥臭いプレーでもいいから、チームのために貢献できるプレーをしよう」と思うようになりました。この変化は、自分が今後の人生を送る上で、絶対にプラスになったと思います。これから私は大学に進学しますが、新しい世界でも挑戦し、吸収していきたいです。

三年間支えてくださった先生方、本当にありがとうございました。ごさいます。

ができました。このことは、自分の視野を広げることに繋がりました。さらに活動を通して考えるという行動が身についたように感じます。これから大学へと進学する中で、高校生活で学んだことを生かし、さらによいものが得られるようにチャレンジ精神を持ち続けたいです。もし、目の前にチャンスがあるとすれば、躊躇せず掴んでいけるような人になりたいと思えます。高校三年間を通して関わったすべての人に「ありがとう」を!!

第37期定期幹事会総会を開催

平成25年3月23日午後6時より八戸パークホテルにおいて、「第37期八戸工業大学第二高等学校同窓会総会」が開催されました。

熊谷雄一会長の挨拶の後に議題の審議が行われました。

第一号議案

「第37期平成24年度活動報告及び会計報告」

会計報告の前に柄本監事より会計監査報告があった。審議の結果、全会一致で承認される。

第二号議案

「第38期平成25年度活動計画及び会計計画」

審議の結果、全会一致で承認される。

第三号議案

「役員改選の件」

住吉事務局長より事務局案が提出され主旨説明があった。

審議の結果、熊谷雄一氏が8期目会長として全会一致で承認される。

引き続き、新会長から新役員の紹介があり、全て承認された。役員は次の通り。(☆は新任若しくは昇格)

- (1) 会 長 熊谷 雄一 (6 回生)
- (2) 副 会 長 田野岡嗣典 (2 回生)

- ☆石塚 利孝 (3 回生)
- 関野 洋史 (10 回生)
- 小山 真央 (7 回生)
- 小野 善一 (4 回生)
- 関東支部長 仙台支部長

- (3) 専務理事 ☆田中 洋 (19 回生)
- (4) 常任理事 小出 敏夫 (3 回生)
- 杉本 雅昭 (5 回生)
- 住吉砂津貴 (6 回生)
- 稲葉 嘉浩 (6 回生)
- 福士 修 (7 回生)
- 下山 順之 (12 回生)
- 佐藤 勝也 (12 回生)
- 村井 京太 (15 回生)
- 青池 俊司 (15 回生)
- 田村 史之 (15 回生)
- 千葉 三代 (19 回生)
- 福井 智久 (23 回生)
- 谷崎日出紀 (24 回生)

- (5) 監 事 岩淵 義昭 (4 回生)
- 柄本 俊一 (14 回生)
- (6) 事務局長 住吉 治彦 (0 回生)
- (7) 事務次長 ☆越後喜代志 (25 回生)
- 前副会長の佐々木睦生 (4 回生) は、関東支部の顧問に就任しました。

「同窓会内規改正の件」
八戸会計事務所から指摘のありました同窓会内規の「第2章6号、第3章の一部項目入れ替え」と、新たに「渉外費」「慶弔規定」を設け審議の結果全会一致で承認された。詳細は同窓会ホームページに記載していますので確認下さい。(http://www.hi-net.ne.jp/koudai2)



高坂俊一先生の還暦を祝う会

H25. 3. 23 八戸パークホテル

☆☆会員からのメール☆☆

◎西野 彰一 (4 回生)

一昨年からの年齢でメリーランド州立大学の夜間のコースに通学中です。卒業まで何年かかるか？わかりませんが、頑張ります。娘も昨年から大学生です。

海上自衛隊

◎木村 克之 (8 回生)

アーティストネーム、大庭れいじとして、東北・八戸復興支援チャリティ朗読ライブやアート展をやって頑張っています。

◎山口 嘉久 (12 回生)

息子と一緒に、モモクロの西武ドームライブに

◎下田 桂衣 (34 回生)

赤ちゃん本舗の総合職として昨年の四月から働き始めました。早速転職になり、今は新潟にいます。

株赤ちゃん本舗

◎高森龍太郎 (34 回生)

大学を卒業し、地元八戸で小学校の先生をやっています。色々な先生方からの指導のもと、日々勉強しながら頑張っています。

八戸市立柏崎小学校

◎小笠原鮎美 (35 回生)

海外留学により昨年の3月に帰国し、大学に復学しました。とても貴重な一年を過ごしてきました。元気です！

宮城教育大学

◎佐々木雪野 (36 回生)

ゼミやサークルで役職を与えられ、悪戦苦闘しながらも頑張っております。充実した学生生活を送っております。

東北学院大学

◎澤藤由佳子 (38 回生)

健康栄養学科なのですが、授業や課題が予想以上に多く大変ですが、元気で頑張っています。

尚綱学院大学

◎田高 真璃 (38 回生)

元気に過ごしています。大学で自分の好きなこと、興味のあることが勉強で

きて、毎日とても充実しています。 宮城大学

◎中村麻美子 (38 回生)

検定取得に向け、勉学に励んでいます。 国際マルチビジネス 専門学校

◎古内美香子 (38 回生)

実行委員に入って頑張っています。 八戸理容美容専門学校

◎前田実可菜 (38 回生)

学校とバイトの両立頑張っています！学校生活を楽しくしています。 八戸准看護学院

◎横内 雛子 (38 回生)

楽しい職場です。皆さんとも仲良くやっています。医療の仕事なので、楽しいキレイなものばかりではないですが、一杯やっています！ 看護助手

物故者

●松川 理 (7 回生)

●田沢 (野呂) 昌代 (8 回生)

●関川 慎一 (12 回生)

●中野渡和子 (18 回生)

●澤谷 賢治 (37 回生)

お悔やみ申し上げます。

特集

活躍する先輩たち



株式会社 青森テレビ アナウンサー

小島 祐希さん(34回生)

聞き手一同窓会事務局

「昨年の4月から「青森テレビ(ATV)」のアナウンサーとして活躍されていますが、これまでどんな活動をしてきましたか？」

アナウンサーの仕事は、多岐にわたります。ニュースを読んで伝えること、県内各地の情報をリポートやインタビューを通して伝えること、自ら取材をして原稿を書くこと、コマーシャルやナレーションの収録、新聞のコラム記事を書くことなど。入社してから、本当に多くの経験をさせていただいています。

中でも印象に残っているのは、『トコトン韓国』という番組のロケです。ディレクター、現地のコーディネーターさん、運転手さんと4人で取材場所を回ったのですが、移動時間が長い上、多いときで1日に放送6回分を収録することもありました。体力的にも精神的にも大変でしたが、現地の人と交流したり、食レポートをしたり、人気のアクティビティを体験したり：内容の濃い取材を何度も経験し、成長させていただけたと思います。

「アナウンサーという仕事はどんな点が魅力ですか？また、逆に大変な点とはありますか？」

たくさんの方に出会えること、そして出会った



「人の想いを伝えることができるのが魅力だと思います。青森には、「こんなに熱い思いで活動している人がいるんだ」と、みなさんの思いに触れる度に感動します。出身地である青森の食・人・文化の魅力を発見し、お伝えする毎日はとても楽しいです。」

「大変だと感じることはたくさんありますが、中でも難しいのはインタビューです。インタビューは、相手の話を引き出す仕事です。そのため、事前に必要な情報を集めて、「何を聞きたいのか」「どんな質問がいいのか」を考えます。しかしそれだけでうまくいくことはまずありません。用意した質問ばかりを気にしていると、相手

が本心に伝えたいことを聞き逃すことがあるからです。相手の話のポイントをしっかり踏まえながら、臨機応変に次の質問を考え、会話することが大切だということを学

「活動がきっかけです。中学・高校時代は、助産師や臨床心理士に興味があり、大学では心理学を専攻していました。大学入学後すぐ、都内の図書館で絵本の読み聞かせの活動に参加し、そのとき壁にぶつかったのです。「伝える力が足りないのではないか」「子どもたちは絵本の世界に入ることができているだろうか」。その悩みを解決しようと思いついたのが、アナウンススクールに通うということでした。はじめは、「伝える力を身につけたい」という思いだけで通ったのですが、周りの受講生は皆、アナウンサー志望者ばかり。その熱意に圧倒されました。また、実際にアナウンサーとして活躍されている方にもお話を聞く機会があり、だんだんと、「アナウンサー」という職業に興味を持つようになりまし



「高校時代の思い出を聞かせてください。」

「種差海岸への遠足が一番の思い出です。二高ジャージを着てみんなで歩きました。友達と他愛もない話をしながら最後まで頑張り、美しい海岸を目にしたときは心から感動し、達成感を得ました。2013年、「三陸復興国立公園」に指定されてから訪れた種差海岸も、変わらず美しかったです。」

「また、勉強や論文などのご指導を熱心にしてくださった先生方との思い出です。」

「今後の目標は？」

「今、夢中になっていることはありますか？(または、チャレンジしたいということはありますか?)」

「今夢中になっていることは、ジャズダンスです。3歳の頃よりバレエを15年間続け、大学からジャズダンスを始めたのですが、やはり踊っているときが一番楽しいです。仕事で悩んだときやリフレッシュしたいときには踊って気分転換をしています。」

「社会人2年目は、「基礎をしっかり固める」「ナレーション力をつける」この2つを目標にします。そのためにも、毎日の発声・発音練習、体力トレーニングは必須です。原稿をただ読むのではなく、状況を想像しながら伝える努力も必要です。視聴者のみなさんの心に届くナレーションを目指します。実際に「ここに行ってみた」「ここに行ってみただけ」のような情報をお伝えできるように、日々鍛錬しています。」

「最後に同窓会の皆さんへ一言お願いします。」

「二高の良さをたくさんの方に知っていただきたいと思います。これからもよろしくお願いたします。」

二高の一年

〔三月〕二日に卒業した三八回生の進路報告を聞いたします。弘前大学三名、岩手大学三名、青森県立保健大学二名、山形大学二名、北教大函館校二名、青森公立大学、北見工業大学、室蘭工業大学、釧路公立大学、岩手県立大学、宮城大学、秋田大学、山形大学、福島大学、群馬県立女子、都留文科大学の国公立大学二二名合格、八戸工業大学一四名、法政大学二名、東北学院大学三名、駒沢大学、東海大学、大正大学、城西大学、二松学舎大学など私立大学七〇名合格、就職においては青森県警、自衛官など公務員八名合格、一般企業一五名合格という結果でし

た。

〔四月〕五日に二三四人の新入生を迎え、代三九回入学式が挙行されました。一九日と二一日の三日間に渡り、新制S.C.クラス（一年生）の三〇名が種差少年自然の家に、オリエンテーション合宿を行い、大学受験に向けた今後の学習のあり方を学びました。

〔五月〕一三日、ブリティッシュ・カウンシル駐日代表のジェフ・ストリーター氏による出張授業が行われました。これ

は「EUがあなたの学校にやってくる」という駐日欧州連合代表部が主催している事業の一環として開催されたもので、今年度、県内では初めての実施となりました。二、二三日の二日間、本校美術コース全学年が校外スケッチ実習で十和田市の鯉川郷を訪れました。三

日、日本国際協力センターが主催するKAKEHASHIプロジェクトの一環として、アメリカ・ケンタッキー州マレー市のCalloway County高校の生徒と教員二四名が来校しました。本校にて歓迎行事が行われました。また、生徒と家族がホストファミリーとしておもてなしました。

〔六月〕一日と三日にかけて高校総体が行われました。今年度も美術コース二年生、佐藤晴香さんの大会ポスターが最優秀賞を受賞し、採用されました。また、優秀賞には二年生、安達香那さんの作品も選ばれました。二四日と七月七日まで第十

四回高校生国際美術展が行われ、美術コース三年生、工藤あかりさんの作品「八戸」が産経新聞社賞に、高成香織さんの作品「金比羅丸」が優秀賞

に、志村美幸さんの作品「見下ろす木」が秀作賞に、中野亜理沙さんの作品「日常」が奨励賞に選ばれました。

〔七月〕一四日と一八日にかけて学校行事最大の二高祭が行われ、二日間一般公開を含み、大盛況に無事終了しました。二七日、美術コース生徒製作によるミニフレーム絵画を、陸前高田市第一中学校仮設住宅の方々に寄贈しました。この機会を利用して、生徒自身の目で三陸沿岸部の市町村の現状を視察し、震災から三年後の復興の様子を考察する機会も持てました。

〔八月〕五日と八日には一年生から三年生まで合宿勉強会が青森県立種差少年自然の家と五戸町ひばり野交流スポーツセンターにて実施されました。二〇日と二二日、つくば市で「イノベーションフォーラムinつくば二〇一三」が開催されました。本校から十一名の生徒が参加して江崎玲奈先生（ノーベル物理学賞）の講演や、各分野の第一線で活躍する方々の講座を通して「科学の素晴らしさ」「イノベーションの大切さ」への理解を深めました。活動の中で、生徒によるプレゼンテーションが行われ、評価の高かった発表者二名は江崎先生から賞状をいただきました。二

〇日と二一日に青森県私学教育研修会を本校が事務局となり開催されました。二一日の午前中は講演会が行われ、講師として本校OBで八戸せんべい汁事務局長の木村聡さんが「ご当地グルメで地域を売り込む」市民発せんべい汁によるまちおこし」という演題で県内三〇〇名の私学の先生方に講演を行いました。

〔九月〕本校生徒が昨年度から継続している放射線の有効活用に関する研究が、NPO法人研究実践施設・環境安全教育研究会が主催する「高校生による環境安全とリスクに関する自主研究活動の支援事業」に採択されました。この事業には本校

を含めて全国で六校が採択されました。四日には本校のメンターである東京大学の飯本先生が日本原子力学会の合間をぬって来校してくださり、参加生徒に対してキックオフ講義を実施しました。また、五日には、福島第一原子力発電所の事故対策に関する研究発表や放射線物理・計測に関する研究者の方々の発表を聴講することができました。その中で、東北大学の入見先生からは直接研究内容に関するアドバイスもいただく事ができました。七日、八戸ポータルミュージアムはつちにおいて、中学生美術セミナーを実施し、七六名の中学生が集まっていた

きました。

部門において、美術コース二年生の新山智子さんが最優秀賞、佐藤晴香さんが優秀賞を受賞しました。さらに、来年度茨城県で開催される、全国高校総合文化祭出品作品に選ばれました。二六日には、小倉百人一首かるた部門B級においては一年生の田代 匠君が一位を獲得しました。同日の弁論部門では二年生の田高莉紗さんの「演題『言葉の力』と同じく二年生の山口芳南さんの「演題『子ども兵士から遠く離れて』がそれぞれ優良賞を受賞しました。また、山口さんは来年開催の全国高総文茨城大会の青森県代表に選ばれ、全国大会への切符を手に入

れました。二五日、外務省が推進する北米地域との青少年交流の事業（KAKEHASHIプロジェクト）として、本校生徒二三名がアメリカに向けて出発しました。一行は三日間の日程で、二六日東京での研修を受けた後、二七日ワシントンD.C.へ向けて出発しました。現地高校の生徒と交流の中に本校生徒の様子が現地新聞に掲載されるなど、文化・日常生活の違いについて多くの事を学びたいという本校生徒の言葉が紹介されました。※写真

（十一月）八日と九日の一泊二日で、本校において「読書合宿」が行われ

ました。読書に親しみ、グループ活動を通してコミュニケーション能力、表現力を養うことを目的に、初めて行われ、二五名の生徒が参加しました。二六日と三十日にかけて修学旅行がありました。コースは京都・奈良・大阪を巡り、日本文化・歴史を堪能してきました。

〔二月〕一四日、芸術鑑賞会に八戸市内のアマチュアバンド、ニュー・サハラ・グループの皆さんが来校、素敵な演奏を披露してくださいました。一三日から一五日の三日間、美術コース第二八回作品展が、八戸ショッピングセンターラピアで行われました。一六二点の作品が展示されました。二二日夏に引き続き陸前高田市の仮設住宅に訪問し、キャンドルの寄贈とキャンドルアートを実施してきました。

〔一月〕一日と一三日、青森県立種差少年自然の家にて一・二年冬期合同合宿学習会が行われました。三〇日と三一日に情報ビジネスコース一・二年生が八幡平リゾートにてスキー教室を行いました。



KAKEHASHIプロジェクト

吹奏楽部定期演奏会
平成26年3月16日(日)
開場 13時30分
開演 14時
八戸市公民館にて無料

《お知らせ》

吹奏楽部定期演奏会
平成26年3月16日(日)
開場 13時30分
開演 14時
八戸市公民館にて無料

美術コース 生徒の受賞作品紹介

第66回青森県高校総合体育大会ポスター

「最優秀賞」

2年 佐藤 晴香さんの作品



第34回青森県高校総合文化祭美術部門

「最優秀賞」「それぞれの年月」F50号油彩

2年 新山 智子さんの作品



第36回関東支部同窓会



H25. 6. 22 お茶の水ホテルジュラクにて

第38回同窓会納涼パーティー



H25. 8. 10 八戸パークホテルにて

第15回仙台支部同窓会



H25. 6. 8 千の庭にて

40周年記念事業 準備委員会発足

先日、1月28日に八戸パークホテルで開催した二高後援会臨時総会において、二高40周年記念事業準備委員会の立ち上げがあり、熊谷会長が、準備委員長に満場一致で承認され、就任が決まりました。
今後詳細が決まりましたら、同窓会会員の皆様にも是非ご協力を頂きたいと考えております。宜しくお願いいたします。



平成26年度 39回生幹事決定

〈関東地区幹事〉

- 一組 加藤春葵
- 二組 竹田千奈津
- 三組 渡辺智亮 上野智宥
- 四組 田村啓 久保絵里奈
- 五組 荒谷優樹 鈴木悠夏
- 六組 藤谷智輝
- 七組 鹿糠穂乃芳
- 八組 杉本仁美
- 九組 舘石静羅

〈仙台地区幹事〉

- 一組 新山亜希子
- 二組 吉島愛理沙
- 三組 小嶋優香
- 四組 澤野当 佐々木慶太
- 五組 菊池裕哉 堀佐奈恵
- 六組 竹原みはる
- 七組 宮川瑞季
- 八組 菅原あゆ美
- 九組 山田陽大
- 一〇組 村岡柚希

〈八戸地区幹事〉

- 一組 佐々木健人
- 二組 関川真弥
- 三組 上田竣 中村祐太
- 四組 中村亮介 吉田彰悟
- 五組 依田伊織
- 六組 滝沢志緒理
- 七組 滝田大陽 上田紗希
- 八組 向山宗輝
- 九組 関下由唯
- 一〇組 伊保沙羅

来年の新幹事が決定するまでの一年間、宜しくお願いします。

主な行事案内

第37回同窓会

関東支部総会
平成26年6月21日(土)
18時開会

お茶の水ホテルジュラク
(東京都千代田区
神田淡路町二、九)

電話(〇三三)

三二五・一七二二
会費 二千元

第16回同窓会

仙台支部総会
平成26年6月14日(土)
18時開会

千の庭(仙台市青葉区中
央三、六、一ヤマダ電機
LABI)八階

電話(〇二二)
七三八・八五二三
会費 二千元

第38回同窓会

納涼パーティー
平成26年8月9日(土)
18時開会

八戸パークホテル
(八戸市吹上一、
十五、九十)

電話(〇一七八)
四三・一一一
会費 二千元

昨年の同窓会では沢山の方に参加いただきありがとうございました。今年も、皆様お誘い合わせの上お越し下さい。お待ちしております。